

2026

ジオラマでつくる絵本

Diorama Picture Book

AD 31 細井 祐里
指導教員 西野 隆司

1.研究目的

絵本とは通常、絵のみで構成された本のことを指す。絵本は長く付き合うものなので、繰り返し何度も読んでもらえるために、本来挿絵だった部分を一つで色々な姿を見せてくれるジオラマを使って表現しようと考えた。また、場面を立体的に現すジオラマを利用することで、絵本を子供たちに読み聞かせる側の大人にとっても、楽しめる絵本を製作する目的がある。

2.調査と分析

①ストーリー選定にあたり、まずは好きなジャンルの聞き込みを行った。その結果、大人が好むジャンルは、主にミステリー、恋愛、コメディ、ダークに分かれた。その中で、大人も子供も共通して興味を持つストーリーとして、ミステリー系統のものを題材に選定した。

②以上の調査結果から、ミステリー・ジャンルでは、宮沢賢治の作品がとても人気があることが分かった。その中でも子供も大人も楽しめる作品として最も人気が高かったものが、『注文の多い料理店』であった。この作品は、小学校でも国語の教科書に掲載されることもあり、本研究の題材として選定した。

3.コンセプトの立案

『注文の多い料理店』のジオラマ→怖いリアルな立体描写→”怖さ”を表現

4.デザイン展開

『注文の多い料理店』はストーリーが進むにつれて恐怖感が高まってくるが、その恐怖感がこの作品においては重要である。この部分をどう表現するかには主眼を置いて取り組んだ。

まず、背景は照明・光を上手く使い、絵では表現しにくいようなものを目指す。「怖い」部分はあっても、あくまで「絵本」なのだから、お話の中の登場人物等は、「絵本」特有のやわらかいイメージで製作し、キャラクターの温かみを出すことで表現する。

5.完成図



6.結論

今回、卒業研究として選んだ「ジオラマの絵本」は、題材に決まり制作に入った際に、とても難しいものだったことを実感した。

小さな模型は壊れやすく、予想以上に表現も難しいものだった。そのこともあり、なかなか難しい部分はいくつもあった。登場人物をもっと際立てることで、より楽しく、愛されるものになるだろうと思う。

ただ、説明の少ない「夜の森」という設定から、湖を追加したりすることによって、よりリアルなものに近づいたし、制作中はとても楽しかった。

その上、ジオラマは、細かい作業が多いこともあり、とてもやりがいがあった。

この研究で、それに打ち込めることが出来てとても楽しかった。

7.参考文献

宮沢賢治 『注文の多い料理店』, 岩崎書店
山形明美 『どこ? もりのなかのさがしもの』, 『どこ? つきよのぼんのさがしもの』, 『どこ? とびらのむこうのさがしもの』, 講談社
ウォルター・ウィック 『ミッケ!』, 小学館
大畑俊男 『ジオラマワールド』
(<http://www.zo-st.com/>)